

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業及び進路指導、心の教育等に対する生徒の満足度はおおむね良好であった。 ・キャンパス間会議等のオンライン化や業務の見直し等により、業務改善と効率的な校務運営に繋がった。 ・学校の魅力化の研究及び実践を、職員全体で行っていく必要がある。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通科と商業科を併置する特徴を生かし、校舎制の学校として独自の魅力を高める。 ○ 地域との協働を通して、高い志と主体的に未来を切り拓く力を持ち、地域や社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 スクール・ポリシー

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
(1) 基本的な生活習慣を身に付け、周りと協力・協働できる生徒を募集します。 (2) 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域や社会に貢献しようとする生徒を募集します。 (3) 将来の「夢」の実現に向けて、チャレンジする精神を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を募集します。(普C) (4) 社会で活躍できる知識・技術の習得や資格取得に意欲的に取り組む生徒を募集します。(商C)	(1) 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動の充実を図ります。 (2) 白石町・大町町・江北町等と連携した探究活動やボランティア活動を行います。 (3) AIを用いた個別最適な学習や習熟度別授業・少人数指導により、一人ひとりの学力を伸ばし、進路実現を支援します。(普C) (4) 個の学びに寄り添うきめ細やかな指導により、ビジネスに関する学びの深化と、ビジネススキルや各種資格の習得を支援します。(商C)	(1) 清らかで優しく、明るく思いやり豊かな人間性を育成します。 (2) 主体的に行動する態度と課題解決能力を育成します。 (3) 夢を形にできるように、一人ひとりに確かな学力と生涯にわたり主体的に学ぶ態度を育成します。(普C) (4) 夢を形にできるように、商業の専門的な知識と技術の基礎・基本を習得し、職業人としての能力と態度を育成します。(商C)

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に行動する態度と課題解決能力を育成 ○学習評価を活用した授業改善の推進 ○キャンパス制機能を活用した魅力的な学校行事の推進 ○一人ひとりの学力を伸ばし進路実現の支援（普通科） ○ビジネスに関する学びの深化とビジネススキルや各種資格の習得の支援（商業科）
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○一人ひとりの学力を伸ばし、進路実現の支援を行う(普) ○ビジネスに関する学びの深化とビジネススキルや各種検定の習得を支援する(商)	○「学習意欲があると思う。」と回答した生徒80%以上(普) ○「商業に関する学びを深めたり、ビジネススキルの習得を行っている。」と回答した生徒80%以上(商)	・AIを用いた個別最適な学習や習熟度別授業、少人数指導を行う。(普) ・個の学びに寄り添うきめ細やかな指導を行う。(商)
	○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導により、生徒自身が自らのキャリア形成についての理解を深め、進路実現を達成させる。	○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合97.0%以上	・各種進路行事を通して、自らの進路に関して考える機会を提供し、生徒自身のキャリア形成に対する理解を深める。 ・学期ごとの記録を通して、自分の取り組みを振り返る機会を準備し、さらなる活動の進展へつなげる。 ・「総合的な探究の時間」への取り組みを通して、地域との関わりや職業について体験をさせることで主体的に活動し学ぶ態度を育成する。
	○主体的に考え行動する力を育成するため、また、学力向上のための授業改善に取り組む	○授業について、「満足している」と回答した生徒の割合90%以上	・ICT機器の効果的な活用方法等、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、各教科で研修を行う。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚を身に付けるための啓発活動や研修等へ参加し、人権感覚を身に付けたと回答した職員・生徒を90%以上。	・クラス担任や教科担当、部活動顧問等から幅広く生徒情報の収集に取り組み、情報共有を図る。 ・人権・同和教育講演会及びホームルーム活動をそれぞれ1回以上実施する。 ・授業や集会等で情報モラルに関する指導を1回以上実施する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめの予防、発見、対応をしていると思う」と回答した生徒78%	・いじめアンケートを年2回実施し、実態調査を行う。 ・QUテストを年2回実施し、実態把握を行う。 ・いじめ対策及びQUテスト分析に関する職員研修を年に1回以上実施する。 ・週に1回、学年・生徒指導・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。
	◎郷土愛を醸成するための教育活動	◎佐賀県や地域について学ぶ活動や講演会を実施し、佐賀県や地域に誇りや愛着を持っている生徒を90%以上にする。	・「さがを誇りに思う教育講演会」や探究活動を通して地域の方々や企業等の代表者から話を聞き、佐賀県や地域の魅力を深める。

●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒を85%以上ににする ●「健康であるために食事は大切である」と考える生徒を95%以上ににする	・年に2回(5月と11月)に食生活アンケートによる意識調査を行う。 ・月に1回(毎月1日)、食育だよりと保健だよりを発行し、望ましい食習慣と健康との関わり、栄養や食品、旬の食材や行事食について等の情報発信を行う。
	●安全に関する資質・能力の育成	○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒90%以上 ○交通ルールの順守や交通マナーの向上への自己評価90%以上。 ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。 ・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。 ・交通講話の実施や交通指導を行い、交通マナーの向上を図る。
	○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができたと回答した教員85%以上 ○心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいると回答した生徒85%以上	・生徒が部活動へ積極的に取り組めるような環境を整える ・放課後の時間の有効活用について、HR等で理解を図る。 ・各部活動が部長を中心に積極的に校内外での活動に取り組み、学校の活性化につなげる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合15%以下を目指す。	・事務ポータルシステムの活用と会議の削減を行う。 ・出退勤システムの活用で、個人が時間外在校時間を管理する。 ・週に1日定時退勤日を設定し、効率的な業務遂行を推進する。
	○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境を構築する	○働きやすい職場環境であると回答した教員の割合80%以上を目指す。	・ゼロの日の服務規律指導時に、ハラスメント防止を徹底する。 ・校内のハラスメント相談体制を整え、相談に迅速に対応する。また、第三者相談機関を職員に周知する。 ・職員研修を年間2回以上実施する。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会(事例研究)の実施 ・ケース会議の開催、教職員間での情報共有 ・特別支援学校職員による巡回相談 ・「Hyper-QU」心理検査の実施と結果についての研修会

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体系的な活動の充実と県内外への情報発信 ○地域等と協働した学校運営(学校の魅力化の研究と実践) ○地域連携の拡大 ○小中高連携の企画 ○学校の魅力の情報発信と県外募集	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上 ★県外からの入学者数2人以上 ○地域連携事業に関わったと思う生徒と職員の増加 ○学校が積極的に地域と連携していると思う保護者の増加	・学校魅力化委員会を年4回開催し、学校運営の改善に繋げる。 ・SAGAコラボレーションスクールの取り組みを充実させる。 ・総探等の地域連携事業の質を向上させる。 ・学校の情報発信を促進させる。 ・小中高連携事業を企画する。
○校舎制による円滑な学校運営の推進	○キャンパス間の連携・協力体制をより充実させる ○業務の効率化と質の向上を図る。	○「本校は、キャンパス間の連携・協力体制がある」と思う職員の割合80% ○「昨年度より業務の効率化が図られたものがある」と思う職員の割合60%以上。	・合同の学年会や分掌会議を行い、キャンパス間の連携を図る。 ・職員の会議や生徒の特別活動等では、対面やオンライン開催等の開催方法を協議し、より効果的な開催方法を探る。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり